「平成２３年度普及に移す成果」

食味、形状に優れるイチゴ新品種「いばらキッス」（出願公表中）

みんなで進めよう
茨城農業改革

農業総合センター生物工学研究所
園 芸 研 究 所

食味、形状に優れるイチゴ新品種「いばらキッス」を育成しました。糖度は、「とちおとめ」よりやや高く、酸度は同等で、「甘さ」と「酸味」のバランスが良く食味に優れます。また乱形果の発生が少なく、果形が整っています。収穫の中休みが少ないため、収量は多くなります。

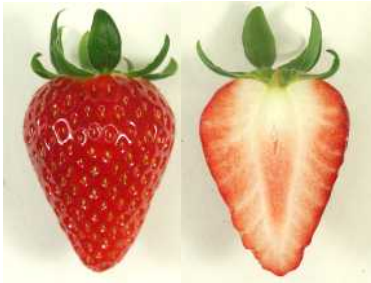
果実の特徴

果実は「とちおとめ」より長めの円錐形です。果皮色は濃赤色で光沢が強く、果肉色は鮮赤です。

果実硬度は「とちおとめ」よりやや低く、ジューシーな食感です。

糖度は「とちおとめ」より高く、酸度は同等で、糖度と酸度のバランスが良いため食味が濃厚で優れます。

乱形果の発生は「とちおとめ」より少なく、果形が整っています。



「いばらキッス」の果実

「いばらキッス」の収量・果実品質

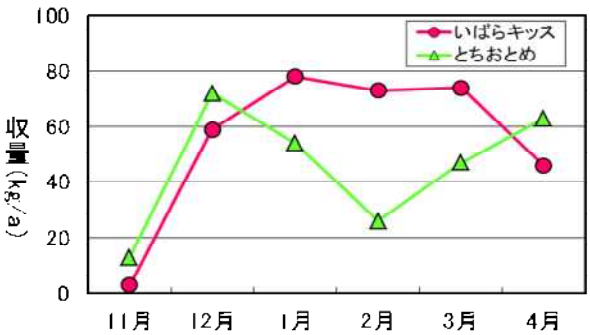
品種名	収量 (kg/a)	１果重 (g)	硬度 (kg)	糖度 (Brix%)	酸度 (%)	乱形果発生率 (%)
いばらキッス	331	13.7	0.49	10.3	0.75	4.7
とちおとめ	281	12.0	0.51	9.9	0.74	6.7

平成 18 年度～21 年度の 11 月から４月までのデータの平均値
定植日；H18：9/13、H19・H20：9/14、H21：9/17　株間 23cm
元肥 N；H18・H19：16kg/10a、H20・H21：15kg/10a

生育の特徴

生育は「とちおとめ」より旺盛で厳寒期における草勢の低下が少ないため、収穫が一時的に減少する「中休み」が発生しにくい特徴があります。

このため、収量が多く、また収穫期間を通して安定した収穫・販売を行うことができます。



月別収量の推移（平成１８年度～21 年度平均）

栽培上の留意点

「とちおとめ」より炭そ病の発生がやや多い傾向が見られるので、育苗期の防除を十分に行なうことが必要です。

暖候期には、果実が軟らかいため、８分着色程度での収穫が適切です。

また「とちおとめ」と同様の栽培法では、品質や収量が低下することがあります。特に、育苗期後半の肥培管理については、苗の窒素濃度を控えめにすることが早期収穫のために必要です。

具体的な栽培方法については、「いばらキッス」栽培マニュアルを参照して下さい。

＜問い合わせ先；生物工学研究所野菜育種研究室　Tel 0299(45)8330、園芸研究所野菜研究室　Tel 0299(45)8341＞